

マルガタゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類

Graphoderus adamsii (Clark)

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

近年、全国的に減少傾向にある。県内では、生息地が一地域に限定され個体数も少ない。

形態

体長13～15 mm。体型は卵形で光沢を有する。胸部背面と上翅は黄褐色で、頭頂、後頭部、前胸背の前後両縁、小楯板は黒色。上翅は基部と会合部が細く黒色で、密な網目紋様も黒色。体下面、脚は赤褐色。頭部に黒色のV字紋がある。オスの前附節の基部3節は吸盤状。幼虫は約25mmのいも虫状。

国内分布

北端部を除く北海道と、本州、四国、九州に分布する。

県内分布

能登北部。

生態

幼虫は5～8月に出現する。水生小昆虫などを捕食し、老熟すると、岸辺に上陸して土中で蛹化する。新成虫は7～8月に出現する。成虫は4～10月に活動し、灯火にも飛来する。成虫も肉食で、寿命は約3年である。

生息地の条件

平野部～丘陵部の水生植物の豊富な、岸辺の緩やかな池沼、ため池、湿地、放棄水田などの止水域。生息地は、周辺に里山環境のある水質良好な水域に限られる。

生存の危機

池沼、湿地の開発などによる消失、ため池の管理放棄やコンクリートによる護岸化、農薬の使用などによる水質汚染、ほ場整備による乾田化、放棄水田の植生遷移、アメリカザリガニ、オオクチバスなどの外来種の侵入、採集圧が大きな脅威である。生息地付近に侵入した外来種の早期発見と駆除、分布拡大の防止が最重要である。ため池の維持管理の継続とともに、周辺の放棄水田などの湛水化による水辺ネットワークの維持が重要である。(A, B, C)

参考文献

佐藤正孝 1984. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書Ⅰ. 甲虫ニュース, (65) : 1-4.
山口英夫・荒木克昌 2001. マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録(第2報). 翔, (152) : 1-2



写真提供者: 富沢章

分布図はありません。

県内の分布